

平成19年度

地域文化学 研究報告書



山形県立小国高等学校 1 学年

目 次

学習の大テーマ	研究テーマ	班 員 名	P
市町村合併・選挙について	市町村合併について	木村麻菜美・木村智聡・長谷川彩	1
	選挙について	伊藤暁林・山口麻希・渡部智絵	6
歌舞伎・祭ばやし・地域の唄	小国町の盆踊りと祭り囃子	梅津也未・伊藤友美・今野祥平 木村 愛・今 成美・佐藤杏奈 松本千歌	9
民俗芸能・民俗行事・庶民信仰・伝統芸能	小国町を中心とした年中行事	井上亜弥・笠原麻帆・三須葉子 桐生和枝・今 那月	15
	山形県と小国町の郷土料理について	木村祐介・佐藤鷹重・佐藤 拓 佐藤裕介	19
雪氷の冷熱をエネルギー資源として利用しよう	雪氷の冷熱をエネルギー資源として利用しよう	伊藤大地・木村健太・今 竜哉 見川英駿・丹 裕平・舟山雄登 渡部 陣・西澤良介	24
小国の歴史・文化を 探る～他地域と比較 して～	小国の歴史・文化を 探る	井上康平・井上竣平・加藤貴史 渡部巧也	29
豊かな自然と小国の人々	豊かな自然と小国の人々	鈴木まみ・高橋あかり・舟山亜希 林 智昭・樋口 誠	33
地域防災と要援護者 対策・山間部地域に おける保健医療福祉 の連携	地域住民として救援者を知る	國分壮史・竹内祐人・小川達也	37
	地域住民として地域を知る	佐野友莉那・舟山菜摘・渡邊あすか	41

学習の大テーマ	大学指導教官	校内指導教官
市町村合併・選挙について	東北公益文科大学 公益学部 准教授 和田 明子 先生	梅津 英幸
歌舞伎・祭ばやし・地域の唄	山形大学 地域教育文化学部 文化創造学科 准教授 鈴木 渉 先生	船山 真琴
民俗芸能・民俗行事・庶民信仰・ 伝統芸能	東北芸術工科大学 東北文化研究センター 准教授 菊地 和博 先生	手塚 小太郎
雪氷の冷熱をエネルギー資源と して利用しよう	山形大学 工学部 機械システム工学科 教授 横山 孝男 先生	阪野 保憲
小国の歴史・文化を探る ～他地域と比較して～	米沢女子短期大学 日本史学科 准教授 吉田 歆 先生 准教授 小林 文雄 先生	高田 和典
豊かな自然と小国の人々	山形短期大学 総合文化学科 教授 大川 健嗣 先生	井上 和広
地域防災と要援護者対策・山間部 地域における保健医療福祉の連携	新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科 准教授 三澤 寿美 先生	高橋 史

* 地域の皆様からも、たくさんのご指導・ご協力をいただきました。ありがとうございました。

「雪氷の冷熱をエネルギー資源として利用しよう」

班員 伊藤大地・木村健太・今 竜哉・見川英駿（雪氷保存班）

丹 裕平・舟山雄登・渡部 陣・西澤良介（電力供給班）

1. テーマ設定の理由

私たちの住む小国町は豪雪地域です。そしてその雪は昔から邪魔者と考えられてきました。しかし今、雪に対する考え方が「豪雪から生活を守る」（克雪）から「雪を利用する」（利雪）へ変わり、とりわけ雪の冷熱を有効利用しようとする取り組みが盛んであることをお聞きし、この邪魔者と思われている「雪」を地域で活用できる方法があるのではないかと思い調べてみました。

2. 調査の概要

- (1) 雪の保存方法について調べる
- (2) 冷熱を取り出す装置を作る
- (3) 冷熱の利用方法について考える

3. 調査の結果

- (1) 雪の保存方法について調べる

雪を夏に利用するために、冬の間保存しておく必要があります。

その保存施設を雪室（ゆきむろ）、最近では【自然エネルギー低温貯蔵施設】等と呼ばれています。

雪に藁（わら）をかけただけのようなシンプルなものから数億円規模の巨大施設まであります。

雪室施設の見学

- i.（中津川の施設）8月1日（飯豊町役場 産業振興課 農業振興室 大矢部さんに話を聞く）

雪室の先駆けとも言えるこの施設は全国でも注目。貯雪量2,744m³。施設内は【保管貯蔵室】【貯雪室】【前室（保管物の搬入など入出する際の、冷気の「逃げ」防止の部屋）】【温度調整室（搬入の際の結露を防ぐための一次保管場所）】で構成。

・雪を取り込む際、そのまま除雪車で投入し、平す手間が省けるよう施設の屋根も除雪車が放つ雪の放物線に沿った形をしている。これは除雪に慣れた地元の人々のアイデア。

- ・常時0℃～-3℃の気温を保ち、湿度は90%程度、水が滴り落ちる状況にはならない。

- ii.（道の駅の施設）9月25日（いいで雪室研究所設計 いいで樋口建設 樋口社長に話を聞く）

貯雪量82m³。今年の冬より作動するそうで詳しい使用データはまだ無い。気密性を重視した構造。高気密住宅の3倍もの超高気密施設。外壁に木を使う理由 ①結露を防ぐため ②少々性能を犠牲にしてもコストを下げること ③地元の木を使う事で地場産業に貢献する。（地産地消）

- iii.（川西の施設・フレンドリープラザ）10月より着工することで多忙の為、話は伺えなかった。

(2) 冷熱を取り出す装置を作る

- ①. 雪室の断熱・保温の構造を使い、氷を長く保存できる保存容器を作成。(雪氷保存班)
- ②. ポンプを作成。回す電源を太陽光で賄う。(電源供給班)
- ③. パイプに水を入れポンプで循環させ冷熱を取る。(全員で)

①【雪氷保存班】

i. 保存についての実験

- ・ 雪氷を長時間溶かさないための方法について実験してみた。

8月3日(気温32度)校庭・次の条件の下、製氷用氷500gが溶ける時間を計った。

(受け皿は実験用10cm×20cmを使用)

- ① そのまま放置
- ② 発泡スチロールの容器に入れる
- ③ 発泡スチロールを二重にして間に空気の層を作る

	そのまま	発泡スチロール	層を作った発泡
	8分40秒	2時間15分	4時間以上 (残225g)

結果

- 1、断熱容器は効果が良い。空気の層を設けることで更に効果を高めることができる。
- 2、気密性が重要で一定の温度を保つことが必要であった。

このくらい差がついた事に驚いた。

①

②

③

ii. 保存容器作成



- ①パイプを切り・空気層を作る為、上げ底を施す。
- ②パイプ用穴を開けドレン加工をする。
- ③パイプを通しチューブを取り付ける。
 - ・外箱に入れ、空気の出入りを確認する。



感想

道の駅の雪室では2月中旬ぐらいの締まった雪を使うそうです。今回の実験では、製氷氷を使ったので隙間が多く、また溶けた後の水が残り、雪の代わりにはなりません。やはり本物の雪を使って実験がしてみたかったです。また、初めはもっと大がかりな実験を考えていましたが、パイプやポンプの準備、氷の調達など問題がたくさん出てきて実現できなかった。やはり考えることと実際やってみることは大きく違うことがわかりました。しかし、失敗するたび新しい方法を考えていくその工程は楽しいものでした。

②【電源供給班】

i. 装置の作成

- ・角度調節のできるソーラーパネルの台を作成した。
- ・ソーラーパネルを屋上に設置し、それをバッテリーに充電できるようにした。
- ・この装置をパソコンに接続し、発電・充電のデータを自動記録できるようにした。

ii. ソーラーパネルによる発電量の測定

実験：ソーラーパネルの電流の変化を調べる。

実施日：7月下旬から8月上旬にかけて測定した。(快晴)
(パネル傾斜角は0度・水平)

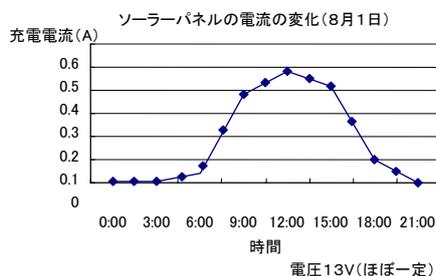
予想：

(山形県・山形)	日の出	正中	日の入
7月1日～8月30日	4:19～5:32	11:42～11:29	19:04～18:25

※理科年表 2007 年版参照

晴天時、日の出・日の入 2 時間を差し引いて 8:30～16:30 8 時間の充電できるとして

$$\text{予想発電量} : 0.59\text{A} \times 17\text{V} \times 8\text{h} = 80.2 \text{Wh}$$



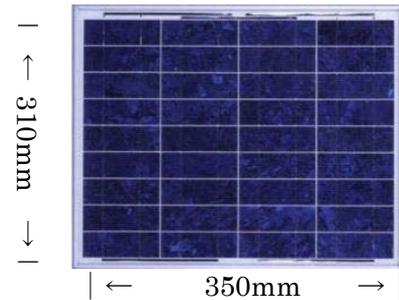
- ① 正午前後に一番発電量が多いことが分かった。パネル仰角を変え常に太陽に垂直にできるようにすれば、全体的に発電量が上がったのではないかと。
- ② 7:30～16:30 の時間帯で 0.3A 以上の発電効果が得られることが分かった。また電圧は、ほぼ 1.3V であった。

実用的な発電時間 (7:30～16:30 9 時間) の平均値・・・0.38A

$$\text{発電量} \dots 0.38\text{A} \times 13\text{V} \times 9\text{h} = 22.4\text{Wh}$$

- ・ 予想の 3 割程度しか得られなかった。
- ・ パネル規格の最大出力を得るための条件は厳しいことがわかりました。
- ・ また実験期間に雨が降らず雨天時のデータを取ることができなかったのは残念でした。

太陽電池 (10W タイプ 0.59A・17V)



③・冷熱をとる【雪氷保存班・電力供給班】

i. 製作の変更

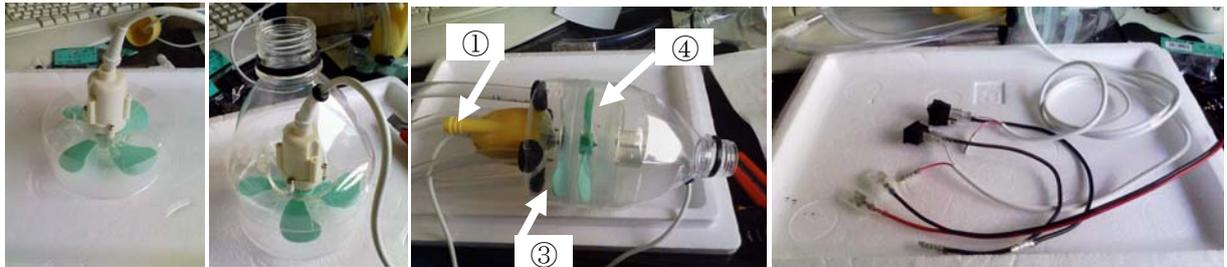
初めパイプの中に水を循環させ、間接的にその水を冷やすように考えていたが漏水の問題など、技術的に難しく水の代わりに空気を循環させることにした。

装置の作成

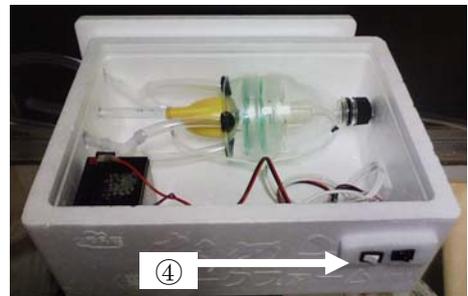
ポンプのモータを使い送風ファンに改造する。



・ファンを2つ付け、一方だけを電力で回しもう一つのファンは風を受け発電させ、少しでも消費電力を回収したらどうだろう？



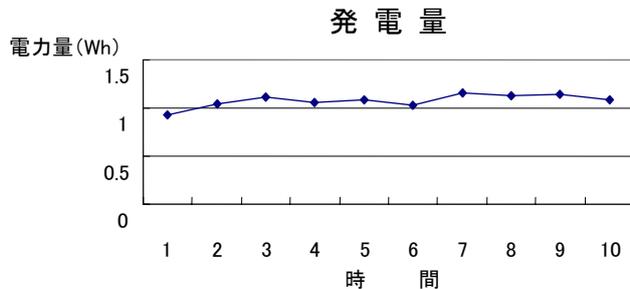
- ① モータの発熱は外へ排出する。
- PET ボトルに2つファンを取付け、
- ② ファンの一方は電力で回し
- ③ もう一方はその風を受け発電するファンを付ける
- ④ 箱の外に電源スイッチを設ける



ii. 発電量を調べる

実験 ファン(③)の発電量を調べる。

風を受け、回るファンのモータが発する電流・電圧を測定 (10分間3回の平均)



	電流 (A)	電圧 (V)	電力量 (Wh)
回すファン	1	12	12
回されるファン	0.4	2.9	1.3

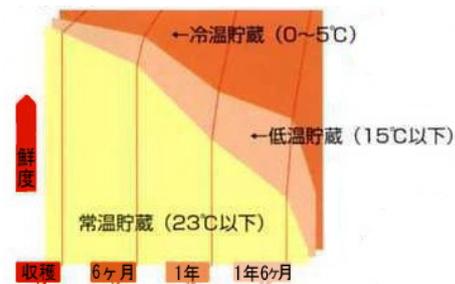
・約10分の1の電力を回収することができたが、風の抵抗となる電力回収用ファンを付けた事で、吸い込み量にどのくらい変化があるのかも調べたかった。

・途中製作に変更が生じたことで当初予想していたものと違ってしまい不満が残ります。しかし結果、冷風を取り出すことが出来たので良かった。皆で知恵を出し合った作業は結構楽しかった。

(3) 冷熱の利用方法について考える

食品の雪中保存

- ・米穀倉庫、野菜貯蔵・お酒の熟成などへの利用
- ・雪室での冷温貯蔵は、雪のもつ特殊な力(澱粉を糖化する)によって食味を増すことが実験で証明されています(低温糖化)またマイナスイオンを発生し、酸化を防止する効果もあるそうです。温度の安定した貯蔵環境の雪室で保存した米は一年たっても味と香りが変わりません。



施設の冷房

室内の冷房として利用。近くでは川西のフレンドリープラザでの計画があります。実際はまだ設置コストがかかる為、自治体の公共施設での冷房がほとんどのようです。しかし省エネルギーという観点から見れば一番の利用かと思えます

地域のPR

飯豊町ではスノーエッグフェスティバルという雪を使った催し(雪合戦や雪上運動会、宝探しゲーム等)も開かれています。アイデア次第で県内外より観光客を集めることができ、また地域のPRに貢献できる。(雪室を利用したそばや米、酒・開花を遅延させ時期はずれの山花を作る・これを利用して花街道やそば街道として隣町と結ぶ など)

雪を電気に変える

地熱発電の応用で熱サイホン式雪発電装置は沸点の低い液体によって火力発電のようにタービンを回して発電します。クリーンで再生可能な資源による発電となります。温度差がある寒冷地の北海道や地熱資源の豊富な九州から注目されています。

3 成果と今後の課題

雪の利用という一番は冷房が思いつきました。あの暑い夏に冬の雪があればと誰もが考えることです。しかし冷房システムを考えるとやはり一般向きではありません。画期的な技術が開発されない限り、利雪は採算の合う事業ではないそうです。ただ、採算が合う、合わないが全てではないと思います。夏のクーラー使用を考えれば雪クーラーは送風機だけなので ①フロンガスの不使用 ②二酸化炭素の排出削減効果 ③電気代の節約など地球にやさしく省エネと、いいことづくめのシステムだと思えるからです。温暖化防止策が取り急ぎ必要とされている今、近い将来雪国の各家庭に雪室が普及し、雪の降らない地域への雪の売買が商売になる日が来るかもしれないと思いました。

今回冷熱を利用するというテーマで調べていくうち、今まで雪国に暮らしていながらも知らなかった雪の一面を知ることができました。雪を夏まで残すという発想を10年も前から施設として実現していたことに驚きました。そしてなにより雪室については十数年たった今でもまだ開発段階ということに奥深さを感じました。外観は同じ雪室の施設に見えますが、それぞれ個性がありました。たとえば中津川の雪室施設は特許が適応されているため、同じ構造にする場合特許料が発生するそうです。道の駅の雪室を設計した会社では真似せず実験と工夫で効率を上げているとの事でした。道の駅の雪室は今年の冬始動。また川西の冷房システムも来夏始動するそうなので、結果とともにその点についても深く調べてみたいと思いました。

「小国町の盆踊りと祭り囃子」

班員 梅津也未 伊藤友美 今野祥平 木村愛 今成美 佐藤杏奈 松本千歌

1. テーマ設定の理由

小国町に昔から伝わる行事で、最もよく知られているもののひとつに盆踊りがある。私たちにとってみれば、小さい頃から慣れ親しんでいて、当然なまでに毎年聴き慣れている歌ではあるものの、よく考えてみるとその由来や踊りのひとつひとつの動作に込められている意味、そして歌詞に込められている思いなど詳しいことについてはほとんど知らないし、また伝えられてこなかったのが実状である。

そこで今回、これらの歴史や由来を調べたり、また実際に盆踊りの演奏や踊りなどを習得しようと考えた。これらに取り組むことによって、小国の盆踊りを十分に理解することができるとともに、伝統を受け継いでいくことにもつながるのではないかと考えたからである。そして、この伝統を絶やすことなく後世に伝えていく努力は、私たちの使命でもあるという思いも込めてこのテーマを設定した。

2. 調査の概要

- (1) 小国町の盆踊りについて
- (2) 舟渡地区の獅子踊りについて
- (3) 二宮神社のお祭りについて



3. 調査の結果

- (1) 小国町の盆踊りについて

①歴史と由来

どこからどのような経緯で伝わったのかははっきりしないが、江戸時代に伝わり、亡くなった先祖の霊を慰めるために踊るとされる。念仏踊りを起源とし、そのなごりからやぐらができ、現在の盆踊りのスタイルになっていった。

②踊りの習得

6月22日(金)、7月3日(火)にコバレントマテリアルの労働組合から盆踊りのテープをお借りして、盆踊り保存会の金鋼一さんと、遠藤たみ子さんに来校いただき踊りをご指導いただいた。

踊りには意味があり、稲を刈る動作や刈った稲を担ぐ動作などを表している。(楽譜とともにイラストを掲載)



③盆踊りへの参加

8月10日（金）に小国町の特別養護老人ホーム「さいわい荘」で行われた盆踊り大会に参加した。



④楽譜

大学指導教官の鈴木先生に上記のお祭りの音声の録音と、楽器や唄・掛け声の採譜をしていただいた。

⑤練習と実演

9月4日（火）と25日（火）に盆踊り保存会の金鋼一さん、山口真一さんに来校いただき、ご指導を仰いで笛、太鼓、唄、掛け声を練習した。

（笛：友美、千歌 / 太鼓：也未、祥平 / 唄：愛、成美 / 掛け声：杏奈）



⑥歌詞

i 形式とテーマ

歌詞は七・七・七・五調の「どどいつ形式」となっており、主なテーマは仏・格言・道徳・艶歌である。その代表的なものを例示してみよう。

ii 代表的な歌詞

< 仏 >

「盆の盆花 おしよらい様よ せめて七日も いてござれ」

< 格言・道徳 >

「親の意見と なすびの花は 千に一つの 無駄もない」

< 艶歌 >

「雪をまるめて お玉と名付け 抱いて寝たれば みな溶けた」

iii 歌われる歌詞

歌詞は約100番までであるが、その全てが歌われるわけではない。歌い手がそのなかから好みによって選んだ歌詞のいくつかが順番に歌われる。また盆踊り保存会での取り決めにより、最後に歌われる歌詞が決まっている。これを歌うことによって、太鼓を担当する人への合図としている。

最後に歌われる歌詞： 「あまり長いと 踊り子があきる

ちよいとこころで ひとやすみ」

(2) 舟渡地区の獅子踊りについて

①歴史と由来

天正10年(1582)、徳川家康が上田城を攻め入ることを知った真田家は、上杉景勝に応援を願うため、真田幸村を人質として越後の春日山城に差し出した。その時、幸村を慰めるために父の昌幸が上田近郊の獅子踊りを越後につかわした。それを保護し、その後に米沢藩内に奨励したのが置賜地方の獅子踊りの起源とされている。沖庭山大権現への奉納と五穀豊穡を祈願し、2年に一度、9月9日前後の農閑期に行われている。以来、神慮を安んずる行事とされている。戦時中は一次休演したが、昭和22年に復活し、昭和59年に第2号民俗芸能として指定された。

②ビデオとイラスト

成美が持っていた獅子踊りのビデオを鑑賞し、鈴木先生にDVDにダビングしていただいた。また特徴的な衣装をイラストにした。(愛、杏奈)

③他の地区における獅子踊り

東置賜地区でも獅子踊りが行われているようだ。



(3) 二宮神社のお祭りについて

①野外調査

8月1日(水)に行われた二宮神社のお祭りを見学した。

②考察

自分たちも昨年参加したこのお祭りは商売繁盛を願うものであり、本来は馬と本みこしを用いていたが、12～3年前から町内の中学3年生が高校入試必勝祈願のみこしを担ぐようになった。その後高校生のみこしも登場し、現在は3つのみこしを用いている。



4. 成果や今後の課題

これまでに（１）二ノ宮神社のお祭り（２）舟渡の獅子踊り（３）小国の盆踊りなど、主に３つの祭礼や囃子について調べ学習を行ってきたが、その中でも小国の盆踊りに的を絞り、特に、実演に力を入れてきた。



この学習を通して何よりもよかったことは、小国町の一員である自分たちが盆踊りを楽譜に残すことができたことと、踊りと演奏を習得できたことである。これは初めに設定したテーマのとおり、小国の盆踊りを十分に理解することができたということであり、伝統を受け継いだということになるのではないだろうか。後世にこの小国の盆踊りを伝えるための架け橋となれたこと、使命を果たせたことは誇りであるし、自分たちの子供や孫にもこの伝統をぜひ伝えていきたいと思う。

また、この地域文化学という学習を始めたばかりの頃、私たちは大テーマを持ってはいたものの、具体的には何もわからない状態で活動を始めたのだった。役場に行きお話を聞いても、小国町にはお囃子の存在自体がないと言われ、絶望的な気持ちになったこともあった。そこからクラスメイトへの聞き込み調査、鈴木先生や盆踊り保存会の方々のご指導、野外調査などを経てこのように学習を進めることができた。はじめはバラバラだった私たちも、次第に協力して活動ができるようになり、この学習を通して成長することができたようにも感じる。精一杯取り組んだ成果である。

最後に、はじめは右も左もわからず自主的に動くことのできなかつた私たちを優しく見守り、最適な助言とすばらしい音楽の能力でここまで導いてくださった鈴木先生、お忙しい中踊りと演奏のご指導にご尽力くださった盆踊り保存会の金さん、山口さん、遠藤さん、ありがとうございました。



「小国町を中心とした年中行事」

班員 今那月 桐生和枝 井上亜弥 三須葉子 笠原麻帆

1. テーマ設定の理由

1年のうちにたくさんの行事が行われている。しかし、私たちが知らない年中行事が行われているところもあると考え、また、私たちが年中行事を知ることによって皆さんにも興味を持ってほしいと思い調べてみました。

2. 調査の概要

- (1) 小国町の年中行事について
- (2) 舟渡・古田地区（小国町）の年中行事について
- (3) 山形県にある代表的な年中行事

3. 調査の結果

- (1) 小国町の年中行事について

①年中行事とは毎年特定の時期に行われる行事の総称であり、その地域の伝統、文化、環境によって大きく異なる。

②小国町についても地域によって異なるが主なものを月ごとにまとめてみる。

月	日にち	行事(行事の内容)
1月	1日	飾り物・朝風呂・朝食・年始・歳男の行・宮詣・村年始
	2日	歳男の行・姑礼ご年始・買い始め・親族年始
	3日	3日とろろ・御日待祭・寺年始
	4日	みそず・寺年始を受ける。
	7日	七草粥
	11日	肥背負い・こびる・野の仕事を始める
	14日	小正月の餅つき
	15日	鳥おい・暁粥・団子さし・小正月の歳より さいず焼き・本漬けの口あけ・月忌はじめ
	16日	朝風呂・ふきとり餅・八方汁・女衆の鎮守詣り
	20日	団子おろし
21日	正月の神送り	
2月	3日	節分・作確かめと天気占い
	8日	針供養・筆供養・手間ごと始め
3月	3日	お雛様の節句
	15日	皇太神社の村祭り
4月	1日	綿ぬぎの日
	8日	権現詣で
5月	5日	しょうぶの節句・笹巻きを作る
6月	1日	むけのついたち・虫送り
	26日	不動祭り
7月	7日	ねぶた流し・かまこたき・お墓そうじ
	13日	精霊だな・飾り物・盆花・お墓参り・こまごま
	16日	迎え火・食物・盆礼・仏拝み・盆踊り
	20日	はつか盆

8月	1日	はっさくのついたち
	8日	ねぶた流し
	13日	お盆
	15日	豆名月・豆盗み
9月	9日	初節供
	13日	芋名月
	19日	中の節供
	21日	仏拝み
10月	29日	刈り上げ節供
	10日	大根の年取り
	15日	鎮守の秋の祭り
11月	16日	田の神上げ
	20日	えびす講
12月	15日	水神祭り
	23日	お大師講
12月	1日	川浸りのついたち
	5日	えびす様の年取り
	8日	てまごと納め・針供養
	9日	大黒様の年取り
	23日	すす掃き
	25日	納豆ねせ
	27日	酒の口あけ・米とぎ・白濁し湯

(2) 舟渡・古田地区（小国町）の年中行事について

①地区の選定理由

班員に沖庭（舟渡）地区の生徒がおり、紹介いただいた方も沖庭（古田）地区の方だったのでその地区について調べてみることにした。



*小国町老人クラブ連合会から古田歌舞伎伝承者の安部藤雄さんを紹介いただきお話をお聞きしました。

②沖庭地区で行っていた年中行事について

【節分】
昔、わたなべという武士が鬼を退治したという言い伝えがあり、その子孫とされている古田地区の「安部」という苗字の家では豆をまかずに神棚などにお供え物をしているということでした。

【牛湯治】
丑の日に湯に入って身体を洗い、清める。

月	行事
1月	元旦参り
	七草
	団子さし・さいず焼き
2月	節分（豆まき）
	針供養
3月	ひな祭り
7月	牛湯治
	七夕
	地藏様めぐり
9月	契約講
	部落の神社のお祭り
1 2月	正月餅つき

【さいず焼き】
子ども達が家からワラを集めてきて棒につける。休日にならない都合で、他の日にやることもある。

【針供養】
手縫いの針を1年間ご苦労という意味で豆腐にさしてご飯などを供えて拝む。

【契約講】
1年間の総会のようなものを契約といい、部落の皆が集まり条例を決める。終戦後はやっていない。

③まとめ

今回お話をお聞きして、戦争が影響していて今までやっていた行事で終戦後にはやらなくなった行事が多数あることがわかりました。また、同じ地域（沖庭地区）で行っている行事でも同じ行事と違う行事があることがわかりました。本やインターネットなどで調べてもわからなかった行事や自分の暮らしている地域にこんな年中行事があったということを知ることができてよかったと思いました。

(4) 山形県にある代表的な年中行事

①山形県内の他の地域にある年中行事を今回は代表的なもののみを月ごとにまとめる。

(場所についての市町村名は合併前のものです)

番号	月日	名称	場所	概説
①	【1月】 6	飛鳥火祭り	飽海郡平田町飛鳥	かつてツツガ虫が発生して、人畜を害したため、ツツガ虫の型をつくり、火で燃やす行事をする。
②	10	山形初市	山形市	古来近郷在の農民らが、臼・杵や梯子などの木工品を持ち寄って生活必需品と交換したもので”臼市”ともいった。また発飴なども売られ、”飴市”ともいわれた。
③	15	やや祭り	東田川郡余目町	6歳から25歳までぐらいの青少年25人ほどが、寒中冷水をあび、はだか参りをする。
④	16	酒田松明祭り	酒田市光ヶ丘林	町の人たちは浜方と里方に分かれて、それぞれ藁(わら)をつんでニオをつくり、自分の組の方のニオに火をかける。早く焼けおわった方が豊作とされる。
⑤	【2月】 10	カセ鳥	上山市	カセ鳥とは”稼ぎ鳥”とも”火勢鳥”ともいわれる。若者が藁で編んだものをつけ、籠をもって”コツコツ”といいながら、米銭をもらい歩く。夜に町民こぞってこの若者らに水を浴びせる。
⑥	【4月】 下旬	将棋供養祭	天童市舞鶴公園	将棋駒で有名な天童でおこなわれる珍しい行事である。桜花の下に人間が大きな駒を頭上に持って、有名人の対局手順どおりにすすむ人間将棋がおこなわれてにぎわう。
⑦	29~ 5月3日	上杉祭り	米沢市 <上杉神社>	上杉謙信をまつる上杉神社の例祭である。武者行列や仮装行列がおこなわれ、いまにのこる上杉藩の鉄砲隊が、あわせて披露される。
⑧	【5月】 5	楯尾犬祭	鶴岡市大山町楯尾	田畑を荒らし、人畜に危害を加え、人身御供を要求するムジナをメツケ犬が退治したのを祝って、感謝祭がおこなわれている。
⑨	8~10	山形植木市	山形市	“お薬師さま”の愛称で親しまれている栢山寺薬師堂の花祭りに、各地の植木商人が市をはり、全国三大植木市の一つとなっており、全国的に有名。
⑩	20・21	酒田山王祭	酒田市下台町 <日吉神社>	酒田の総鎮守日吉神社の例祭。豪華な山車がでる。
⑪	【6月】 5	鶴岡天満宮祭	鶴岡市神明町 <太宰府神社>	鶴岡天満宮の例祭。俗に、“化物祭”とも呼ばれる。男も女も頭巾・編笠で顔をかくし、男は女装、女は男装で市中をねり歩き、通行人に酒を振舞う。
⑫	【7月】 15	石仏寺百万遍供養	天童市高櫛 <石仏寺>	一向上人俊聖が五智五仏を刻み口称念仏するや、流行していた病気がたちまち退散したとつたえられ、今でも五石仏の前に萩をそなえ百万遍供養をおこなう。その萩は軒にさすと疫病よけになるという。

番号	月日	名称	場所	概説
⑬	【8月】 6～8日	花笠祭り	山形市	東北4大祭りの一つ。市内目ぬき通りを花笠をもった数千の踊り子がパレードする。
⑭	17	庄内祭	鶴岡市馬場町 〈庄内神社〉	旧藩主酒井侯をまつる庄内神社の例祭で、古式ゆかしい大名行列、黒川能の上演、盆踊り、燈籠流しなどがおこなわれる。
⑮	中旬	水郷左沢夏祭り	西村山郡大江町左沢	水死した子供のためたてた地蔵にちなんでしまった。
⑯	20	大石田祭り	北村山郡大石田町	最上川随一の水郷だった大石田で、花火大会や燈籠流しがおこなわれて、たいへんにぎわいをみせる。
⑰	23～26	新庄山車祭り	新庄市最上公園 〈戸沢神社〉	新庄藩主戸沢侯が、冷害に苦しみ意気沈滞した領民を奮起させるため、盛大な祭礼行進を催したのがはじまりとつたえられる。
⑱	31	羽黒山八朔祭	東田川郡羽黒町 〈羽黒神社〉	開山蜂子皇子の命日とされる。“田面作り”ともいわれ、二百十日の厄日も無事であるよう豊作を祈願する。
⑲	【10月】 16	日和流し	酒田市飛鳥	あずきあんをつけた餅を笹の葉で包み、神棚にそなえたあと海に流す。海難にあわないためのまじないという。
㉑	【11月】 15	釜祝	新庄市	一種の収穫祭り。釜をよく洗って新米で餅をつき、神仏に供え家内一同で食べる。
㉒	【12月】 31～ 元旦	羽黒山松例祭	東田川郡羽黒町 〈出羽三山神社〉	一種の虫送りの神事で羽黒山祭礼中最大の行事。

② 感想

調べてものには私達が知っているものや知らないものなど山形県内といってもほんとうにたくさんの中行事があった。祭礼などについても単にお祝いの祭りというだけでなく様々な言い伝えや歴史から行われていた。

4. 成果や今後の課題

今回、このテーマで学習を進めてきて、古田地区の方のお話やさまざまな文献、資料から私達の知らない年中行事または何気なく行っていた年中行事があることを知りました。しかし、1つ1つの行事について詳しく調べられなかったり、小国町の中での違いなどを調査できなかったことが課題として残りました。

年中行事は、そのところでの伝統的な文化であってこれからも受け継いでいかなければならない大事な行事だと思いました。私達以外にも多くの人に興味を持ってほしいです。

参考資料： 「年中行事読本」 羽前小国民俗学研究部編集 1959. 2月発行

「小国郷の民俗文化伝承記」 小国町老人クラブ連合会編集 1997. 3月発行

「山形県と小国町の郷土料理について」

班員 佐藤拓 佐藤裕介 佐藤鷹重 木村祐介

1. テーマ設定の理由

東北芸術工科大学の菊地先生の講義の中で、郷土料理の本を見せていただきました。最初、郷土料理というものがあまりわかりませんでした。お話を聞いた中で様々なものがあることを知りました。そこで、普段何気なく食べているものの中で郷土料理とはどのようなものなのかなど小国町と山形県の郷土料理についても知りたいと思い、このテーマを設定しました。

2. 調査の概要

- (1) 郷土料理とは
- (2) 山形県の郷土料理について
- (3) 小国町の郷土料理について
- (4) 祭り・行事で食べられている料理
- (5) 郷土料理の現状

3. 調査の結果

- (1) 郷土料理とは

- ① 郷土料理

地方ごとにある独特な料理のことで、その地域の特産物などを主体としてそこで発展した調理方法で作られた料理のこと。「地方料理」と呼ばれることもある。

- ② 郷土料理の歴史的背景

郷土料理の発達には大きく分けて2つのケースがある。

- (i) その地域でしか賞味できない食材というものが影響しているケース。

食材で保存が利かないものや、地域の気候風土で他の食材が得られない場合に発達する食文化である。例えば生もの（生鮮食品）などは賞味期限が短く輸送が困難であるためその地域で消費するしかなかった。

- (ii) その地域の権力者などが関与しているケース。

例えば、ある時代において時の権力者が著しく気に入った結果その地域の代表する料理になるなど地域の料理にはさまざまな伝説的逸話も付きまとう。その結果、祭りや行事などで食べられるようになるなど今に伝わる食文化も存在する。

- (2) 山形県の郷土料理について

- ① 山形県内の郷土料理（よく知られているものをごく一部）

- ・芋煮 ・青菜漬け ・板そば ・いなごの佃煮 ・おみ漬け ・鯉の寒露煮 ・ずんだ餅
- ・とんどん焼き ・寒鱈汁 ・だし ・納豆汁 ・冷やしラーメン ・ゆべし ・うこぎ御飯
- ・おかひじきの辛和え ・笹巻き ・孟宗汁 ・だだちゃ豆の枝豆 ・玉こんにゃく など

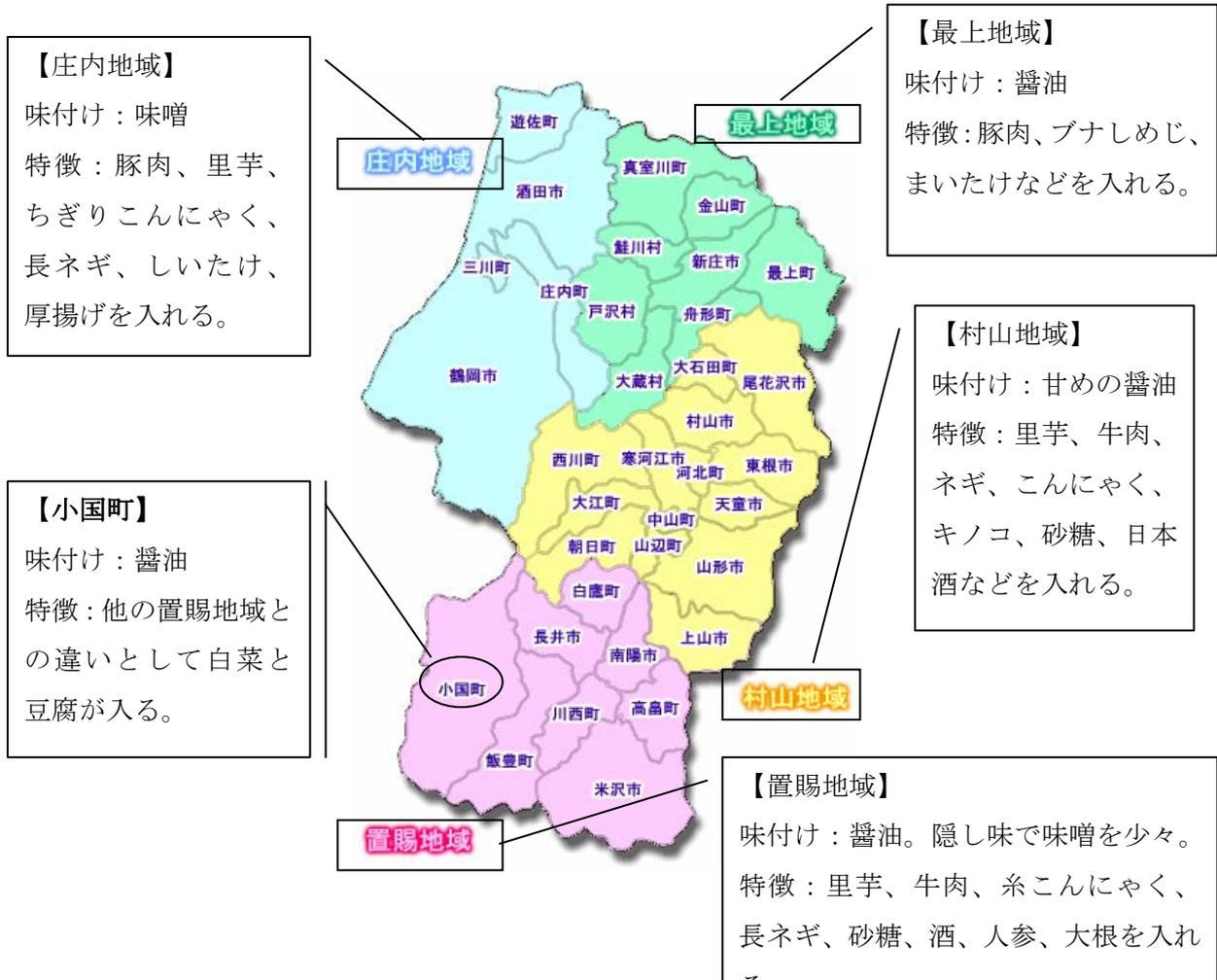
② 芋煮について

多数ある山形県の郷土料理の中で特に有名なものである「芋煮」について調べてみる。

(i) 芋煮の歴史

1600年代半ば、山形市の西北に位置する中山町が、当時の最上川舟運の終点だった。舟運で着いた荷を引取りに商人などが集まって来るが、電話など無い時代で船頭たちは商人が来るまで何日も待たされる。退屈しのぎに近くの老松に鍋を掛けての野宴をし、船着場の近くには里芋の名産地の小塩部落があり、頼んで売ってもらった里芋と積み荷の棒タラなどを鍋で煮て食べたことがそもそもの芋煮のルーツだと伝えられている。1800年代に入るとニシンと里芋を煮て紅花取引の慰労会を行ったとの説があり、その後、明治に入って町人たちがこのような楽しみ方を身近な河原へ持ってきて「芋煮会」と名付けられたとの言い伝えがある。

(ii) 県内の芋煮の違い



(iii) なぜ小国の芋煮にはなぜ白菜がはいるのか

根拠は無いが、その地域に根付く特徴的な食材が「芋煮」に入っている。小国は雪国のせいか体が温まる食材ということで芋煮に白菜を入れる。しかし、体が温まる食材ということで白菜を選んだ理由はわからない。

③ まとめ

同じ山形県といってもその土地柄により料理は大きく異なる。山形県で唯一海に面した庄内地域では鮮魚が比較的手近で食べることができたり、同じ平野部に位置する最上、村山、置賜地域でも米や野菜などを中心に違いが出てくる。

(3) 小国町の郷土料理について

様々な方に聞き取りを行ったところ小国町で郷土料理というと土地柄のせいか特産品である山菜を使った料理がほとんどであった。

① 小国町の特産品

「森のめぐみ」で販売されていた小国町の特産物（季節：秋）

- ・わらび ・山ふき ・山うど ・とび茸 ・行者にんにく ・あいこ ・みず ・あけび
- ・厚木しいたけ ・むき茸 ・なめこ ・くり茸 ・ほ一き茸 ・しめじ ・かぬか ・くるみ
- ・おりめき など

② 郷土料理の体験

(i) 小国の道の駅白い森にあるレストラン「あいあい」で郷土料理についての取材と実際に試食を行い体験してきました

① わらびの煮物（100円）

- ・材料：にんじん、糸こんにゃく、あぶらあげ、わらび
- ・調理法：油揚げをしたゆです。糸こんにゃくを下ゆです。わらびも入れてゆです。味付けをして完成。



③ まいたけの煮物（100円）

- ・材料：まいたけ、糸こんにゃく、油揚げ
- ・調理法：油揚げをしたゆで。糸こんにゃくを下ゆで。まいたけも入れてゆです。味付けをして完成。

② みずの煮物（100円）

- ・材料：みず、糸こんにゃく、油揚げ、にんじん
- ・調理法：みずの塩漬けを銅のなべでゆでて色づけして材料を一緒に煮る。

④ いなごの佃煮

- ・材料：いなご、たれ（しょうゆ、みりんなど）
- ・調理法：いなごを調合したたれで煮込んでいく。
- *昔はカルシウムを取るためとしても食べられたが今は他の食べ物で摂取できるようになったためあまり食べられなくなった。



(ii) 感想

レストランあいあいで頂いた物は、実際に自分達の家などで食べたことがあるものでした。郷土料理とは考えなかったけど案外自分たちの周りにあり、食生活の中で大切なものでした。郷土料理は昔ながらの料理で自分たちの口には合わないと思っていましたが、とてもおいしいものでした。

(4) 祭り・行事で食べられている料理

①前の歴史的背景でも述べたように、郷土料理と祭りや年中行事などはつながっていることが多いため、行事で食べられる料理についてまとめました。

月	日にち	行事	食べ物(内容)
1月	元旦	正月	雑煮、数の子豆、ひょう干のくるみ和え、粕汁
	2日	正月	するめ、子持カレーの煮付け
	3日	正月	とろろ汁、からかい煮付け
	4日	正月	柿大根おろし、かぶ汁、がも揚げの煮付け、煮和え、ひたし きんぴらごぼう、二の汁
	7日	正月	七草粥
	15日	小正月	餅、塩引き(鮭)、煮物、なます
2月	3日	節分	豆をまき年の分だけ食べる
3月	3日	ひな祭り	甘酒、あさづき、鱒子、くわい、あられ
	18日	春彼岸	芋子煮、南瓜煮、豆腐八杯、ぼた餅
4月	2日	草餅	草餅
	28日	上杉神社祭	赤飯、棒鱈煮、大根干煮、冷汁、寒天
5月	5日	のぼりの節句	笹巻き、柏餅、ゆべし
	15日	高い山	重詰め、うどんシンの煮付け
6月	1日	むけの朔	氷ったものを食べる、凍み大根と棒鱈煮
7月	7日	七夕	そうめん
8月	13日	お盆	昆布巻、丘ひじき辛子びたし、ゆで玉子のじんだ和え はぜくじら酢味噌和え、味噌冷汁、うこぎ切り和え
	15日	お盆	ごぼう蒲焼、くるみ寒天百合煮付、冷汁、焼きナス
	16日	お盆	棒鱈と凍み大根煮、茶巾しぼり、一間とび、不断草 ささぎじんだん和え
9月	13日	お月見 豆めい月	月見餅
	20日	秋の彼岸	おはぎ
12月	23日	冬至	小豆かぼちゃ
	大晦日	年取り	鯉のうま煮、煮飯、なます、冷汁、数の子

(5) 郷土料理の現状

① 食の多様化による郷土料理の喪失。

→コンビニなどの登場やさまざまな飲食店の出店また交通・輸送や通信が活発になり様々な食べ物が溢れている。

② 行き過ぎた商業主義

→観光客向けに「郷土料理」「名物料理」にしたてられ実際には地域住民に食べられておらずラベルのみで特産物として売られているものがある。

③ 衰退文化の保存と維持

→社会が近代化していく一方でスローフードや地産地消といった衰退文化の保存と維持の動きも見られる。

4. 成果や今後の課題

郷土料理は、昔から伝わるその地域にとっての大切な料理だと思いました。だから、僕たちはできるだけこの郷土料理の歴史を絶やさないようにできるだけたくさんの人にこの小国町にはこのような郷土料理があるということを知ってもらい、その郷土料理を食べてもらいたいと思いました。これからは、この郷土料理は今までよりいろんな人に食べてもらえるものであればいいと思います。

参考資料：「やまがた郷土料理」 山形県立食生活改善推進協議会編集 1997. 9月発行

「市町村合併について」

班員 木村智聡 木村麻菜美 長谷川彩

1. テーマの理由

国・県が市町村合併を進めているなかで、小国町には将来市町村合併が必要かどうかを考える。

2. 調査の概要

- (1) 市町村合併が進められている理由
- (2) 現在の山形県の案
- (3) 小国町の現状と歴史
- (4) 合併の良い点・悪い点（長所・短所）
- (5) 小国町の意向（役場でのインタビュー）

3. 調査の結果

- (1) 市町村合併が進められている理由

①日常生活圏の拡大：生活行動範囲が急速に広がってきた。

具体例→米沢へ買い物に行く、川西の病院へ行く etc...

②地方分権の推進：国で決めていたことを地方のことは地方で決めるようになるため、地域の人達の意見が反映されやすくなる。

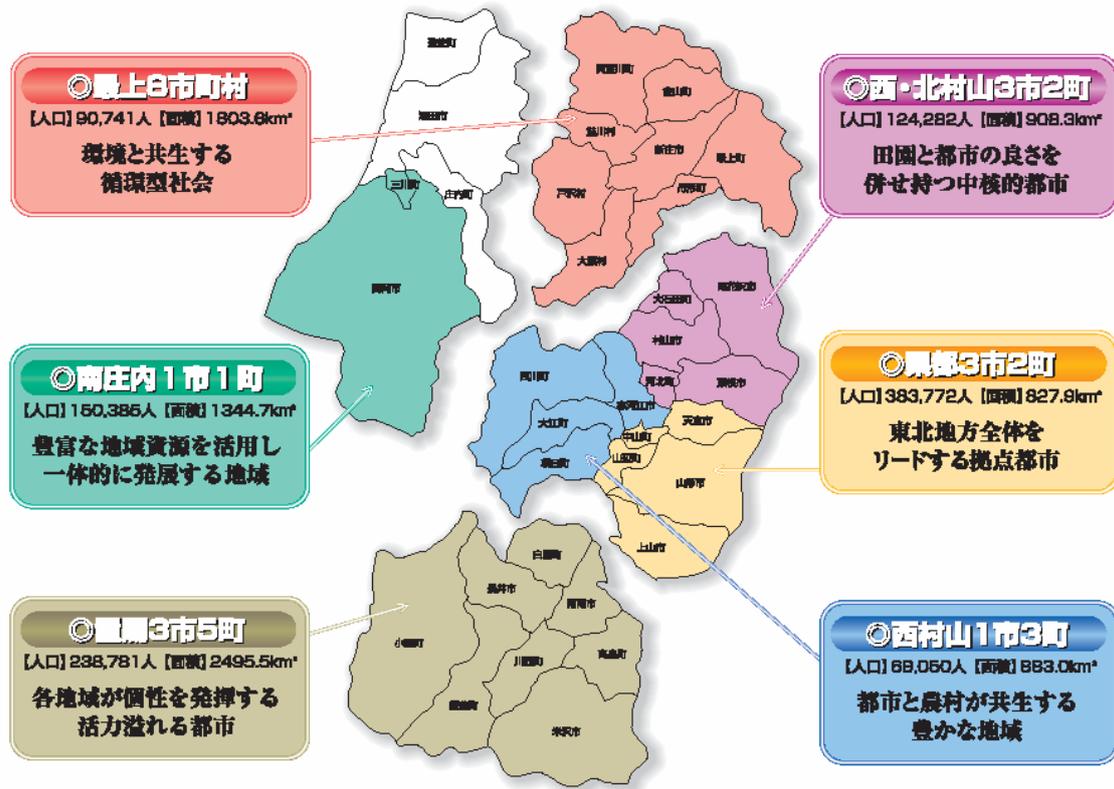
③超高齢化社会の等への対応：税金を納める人が減る・収入が減り支出が増える・年金をたくさん使う この3つを抑えられる。

④国・地方を通じた財政問題の悪化：町の収入が少なく支出が多いと赤字になってしまい、将来増税になる。

合併すると議員に払うお金が減って支出がおさえられ、赤字がきえる。

(2) 現在の山形県の案

平成17年4月から平成22年3月までの5年間に期間とする、市町村の合併の特例等に関する法律（合併新法）に基づき、山形県では「市町村合併推進構想」が策定された。この構想では、「日常生活圏を踏まえる」「住民に身近な仕事がたくさんできるようになる」「概ね人口1万人未満の市町村を対象とする」ことを基本的な考え方として、市町村合併の組み合わせが示されている。小国町は、置賜全体（3市5町）で合併する案になっている。



(3) 小国町の現状と歴史

①現状

(単位:人)					
区分 年次	総人口	65歳以上人口	65歳以上の総人口に対する割合		
			町	県	全国
S 50	12,649	1,158	9.20%	10.10%	7.90%
55	12,221	1,416	11.60%	11.70%	9.10%
60	12,096	1,795	14.80%	13.40%	10.30%
H 2	11,315	2,156	19.10%	16.30%	12.00%
7	10,715	2,504	23.40%	19.80%	14.50%
12	10,262	2,833	27.60%	23.00%	17.30%

人口→9516人 男→4630人 女→4886人 (2007年9月30日現在)

面積737,55平方km (山形県総面積の7.9%)

※米沢市の人口=93,170人、65歳以上=20,022人

比率=23.1% (平成17年国勢調査の速報値)

②合併の歴史

江戸時代は、米沢藩領。米沢藩の小国御役屋が置かれていた。

1889年—町村制、小国町、南小国村、北小国村誕生。

1954年3月31日—西置賜郡小国町、南小国村、北小国村が合併し、小国町となる。

1960年8月1日—西置賜郡津川村を編入。

(4) 合併の良い点・悪い点 (長所・短所)

①良い点・長所

○住民の利便性が向上。

○高齢率が下がると財政的によくなる。

○大きな組織だと余裕が生まれる。

○小さな役所だと人数が少なくできないことがあるが、大きくなると福祉の専門の人を雇うことができ、高度なサービスをたくさんできるようになる。

○病院、文化センターなどをたくさん造らなくてもよくなる。

○町づくりをより効果的に進める。

○地域のイメージアップと総合的な活力の強化。

②悪い点・短所

○中心部だけがよくなって、周辺部はさびれてしまう。

○介護費等でお年寄りはお金がかかる。

(5) 小国の意向 (役場でのインタビュー)

Q1→合併をした場合

利便性は? A: 公共インフラの整備・充実等が多く見られるため住民サービスの充実が挙げられる。合併をすると、財政難などから同レベルの税などの住民サービスを維持することができる。

不便性は？ A：合併すると面積が拡大し、役場などの業務も統合することにつながる。職員数を減らしたり、事務効率化のための公共施設の統廃合も考えられるため、合併前よりサービスが低下するのではないかと心配もある。

Q 2→合併をしなかった場合

利便性は？ A：これまでの小国町づくり（白い森）を継続する事ができる。

不便性は？ A：白い森小国というキャッチフレーズがなくなり、町独自の計画ができなくなる。

Q 3→人口が増えることによって財政的余裕が生まれるのか？

A：合併をすれば、旧市町村の予算が新市町村の予算となるため、全体の予算額は増える。しかし、人口一人当たりを平均して計算すれば、合併をただけでは財政面はあまり変わらない。合併によって、財政的余裕が生まれるという意味では、次の二つが挙げられる。

- ①予算額が増え、重点的に配布することができる。
- ②支出を抑えることにより、新たに財源を確保することができる。

よって、それまで対応できなかったサービスや施設整備などが可能となる場合もある。

Q 4→小国町の役場の職員数は実は多いか？

A：小国町は、町立病院や老人健康施設等を町で運営しているために、全体では人数が多いように思われている。一般行政職は、他市町村と比べて多くない。

現在職員数は193名（一般行政職等121名、医療・福祉関係職72名）

合併した場合役場職員数は、186名くらいに削減されると考えられている。

Q 5→合併後の対策は？

A：今のところ独立してやっていけると役場の方は考えているので対策考えていない。

Q 6→県が決めた合併をするという案に反してもいいのか？

A：強制で県が決めたことではないので最終的には町長の判断で決まる。



対応してくださった
小国町役場 中津川さん

4. 成果や今後の課題

小国町はなくならないでほしいという気持ちはあるものの、置賜地区の合併によりたくさん
の良い点が生まれると考えていました。例えば、お年寄りには年金を必要としたりするので、費
用がかかります。小国町と米沢市の人口を比べると米沢市のほうが圧倒的に多く、さらに高齢
者の比率が低いことがわかりました。そこで、合併をした場合人口が増えるので、財政面も少
し余裕ができ、小国町の高齢化福祉も充実します。この結果からは合併したほうがいいのでは
ないかと考えていました。

しかし、実際役場の方にインタビューしてみて、私たちが調べた結果とは多少違い、考え直
すところがありました。合併にはいろいろなメリット・デメリットがあります。これからも関
心をもって調べていきたいです。

【参考文献・ホームページ】

- * 山形県総務部市町村課パンフレット「これからの地域づくりと市町村合併」
- * ウィキペディア
- * 山形県小国町のホームページ

「選挙について」

班員 伊藤暁琳 山口麻希 渡部智絵

1. テーマ設定の理由

今年は、統一地方選挙と参議院議員選挙が重なる、12年に一度の「選挙イヤー」とよばれる年である。小国町でも、4月8日に県議会議員選挙、4月22日に町議会議員選挙、7月29日に参議院議員選挙が行われた。

知らないことの多い選挙であるが、私たちはもう何年かで必ず選挙権を持つ。選挙の意義、現状や問題点を知り、将来には積極的な有権者になりたいと考え、このテーマを設定した。

2. 調査の概要

- (1) 選挙の5原則
- (2) 選挙権・被選挙権
- (3) 投票の方法
- (4) 小国町議会議員選挙・参議院選挙について
- (5) 投票率の現状・投票率低下への対策
- (6) 各国の選挙の状況

3. 調査の結果

- (1) 選挙の5原則
 - ①普通選挙・選挙権は一定の年齢に達したすべての国民に与えられる。
 - ②平等選挙・選挙人一人に一票で、性別・財産・学歴などでの差別はない。
 - ③秘密選挙・誰が誰に投票したか、わからないような方法で選挙を行う。
 - ④自由選挙・選挙人の自由な意思によって行われる。
 - ⑤直接選挙・選挙人が直接代表者を選ぶ。選挙人が直接候補者に投票する。

(2) 選挙権・被選挙権

・選挙権

選挙する権利、すなわち投票する権利。国民（満20歳以上）の持つ重要な参政権。

・被選挙権

選挙される権利、すなわち立候補する権利。満25歳以上または30歳以上の国民に与えられる。（各選挙によって異なる。）

(3) 投票の方法

- ①前日までに投票案内が郵送される。
- ②投票案内を持って投票所へ行く。
- ③投票用紙を受け取る。
- ④投票用紙に記載する。
- ⑤投票箱に入れる。
- ⑥開票される。

(4) 小国町議会議員選挙・参議院選挙について

①小国町議会議員選挙→H19.4.22

立候補者→13人

当選者数（定数）→12人

投票率→82.17%

衆議院議員選挙→H19.7.29

投票者の平均年齢・55.7歳

女性の平均年齢・56.4歳

男性の平均年齢・54.9歳

投票率が高かった年代・50歳代

投票率が低かった年代・20歳代

(5) 投票率の現状・投票率低下への対策

①投票率は低下の傾向

投票率は年々低下傾向にあり、特に20代の政治離れによる投票率低下が問題視されている。



小国町役場でのインタビュー

②投票率低下によって起こる問題

考えられる大きな問題は、組織票に力を持たせてしまうという現象である。組織票が力を持つ選挙が行われると、一部の組織のみが政治の恩恵を受ける、偏った政治を引き起こす。

③投票率低下の原因

全国→ ・政治への無関心

- ・政治への不信や不満
- ・支持対象がない（＝支持政党なし層の増加）
- ・レジャー等の優先
- ・選挙の宣伝・PR不足

地方→ ・魅力ある候補者が少ない

- ・投票の場所や時間等、投票しやすい環境が整っていない
- ・選挙制度が複雑で分かりにくい

④投票率低下への対策

政府→ 投票率低下を改善するため、不在者投票制度などの新しい選挙制度を取り入れている。

(6) 各国の選挙の状況

①選挙権を持つ年齢

多くの国が20歳以下で選挙権を持つ。

②政策

投票に対する特典、棄権に対する法的罰則を設けている。

4. 考察・感想

(1) 選挙制度について

選挙の基本的な役割や制度が分かったことで、政治についても関心が持てる様になった。小国町の参議院選挙の投票の状況の調査、また町役場へのインタビューをとおして政治を身近に感じることが出来た。

(2) 投票率について

日本の選挙制度には、まだまだ不便な点が多くあるし、投票率向上のための制度を新しく導入しているのに、有権者へのPRが足りずに活用出来ていない。また、有権者はもっと政治へ関心をもって、自分のライフスタイルに合った制度を利用して選挙に参加するべきだと思った。

「小国の歴史・文化を探る」

班員 渡部巧也 加藤貴史 井上峻平 井上康平

1. テーマ設定の理由

小国町は自然豊かな町です。「マタギ」の町としても知られているところがあります。私たちはそのような町で過ごしてきました。当たり前のようにある山や川などに当たり前のごとく遊びにも行きました。そうすると小さい神社などがたくさんあり、なぜこんな場所に神社があるのか、気にもなりました。

この地域文化学で、小国町の歴史を探るうえで、このような神社は欠かせないものだと思います、調べようということになりました。

2. 調査の概要

- (1) 『小国の信仰』など文献の確認
- (2) 大宮子易両神社、仁科清實さん（『小国の信仰』編集員）へのインタビュー
- (3) 神社マップの作成

3. 調査の結果

(1) 神社建設の経緯について

①いつごろ建てられたのか

大宮子易両神社・・・	7 1 2 年	突智冠神社・・・	1 1 8 6 年
稲荷神社・・・	1 2 5 0 年	熊野神社（東原）・・・	1 3 8 4 年

その他の神社については、創立不詳、もしくは戦国・江戸時代に立てられた。

②建立された理由

- ・大宮子易両神社については、7 1 2 年、遠江国周智郡小国郷椿村（現在の静岡県森町）に鎮座する小国神社より大己貴命おおなむちのみこと（出雲の神）を分霊して移しまつられた（大宮神社）。1 3 1 2～1 3 1 6 年、小国二の宮原に鎮座した四柱の神々（子易神社）を合祀し、大宮子易両神社と崇めあがまつられた。
- ・春日神社は、当領上杉家の安泰繁盛を祈願し、奈良春日神社より分霊された。
- ・その他の神社も紀州和歌山熊野神社や信州諏訪大社などの全国的な分霊もあるが、ほとんどの山神社は、その地の繁栄などを部落住民が祈願して建立されたものが多いようです。

③建設費用

- ・ほとんどの神社が創立不詳であったり、神社の規模もそれぞれに違い、不明。
- ・大宮子易神社の場合は、約1億2000万円ほどであり、信者のお布施などが財源だそうです。

④建立させた人物

- ・大宮子易両神社については、712年、元明天皇の命により、奈良朝廷による東北支配の際に建立されたようでした。
- ・古四王神社は、大和政権におかれた古志族によるものではないかといわれている。
- ・稲荷神社は、木曾義仲の臣で木曾彦右衛門による。
- ・諏訪神社は、上杉景勝の家臣、松本伊賀守助義が小国城代として着任した際、信州諏訪大社より勧請された。
- ・山神社（金目）は、伝説では、平家の落人^{おちうど}、齋藤伊豆守藤原要といわれている。
- ・その他の山神社などは、部落住民がほとんどのようでした。

(2) その他について

①神社のご利益

- ・大宮子易両神社については、安産・子授かり・子育てなどが有名。県内外から参拝にやってくる人も多い。
- ・その他の山神社などは、五穀豊穰^{ごこくほうじょう}や豊猟、悪魔祓、郷内安全、身体健康などが上げられる。

②昔からその場所に立地していたのか

- ・樹林の霊など神秘的な自然の地に立地。
- ・立地は昔から変わらない場合が多い。しかし、山手から平地へ移るケースもある。
(風雪で鳥居がよく壊される場合など、移転もしくは鳥居がないケースも)

③神社の内部

- ・通常、神社には神社名・建築年・宮司^{ぐうじ}・御神体を記した木製の棟札^{むなふだ}が内部にある。何かがあるたびに棟札が追加される。

(白山神社の例・・・4軒の共同管理など記載)

- ・御神体は、石の場合が多いが、何もない場合もある。

④その他

- ・山形県神社庁が、小国町内で法人化として認定している神社は、現在26社。認定を受けている神社内は役職など組織図が存在。

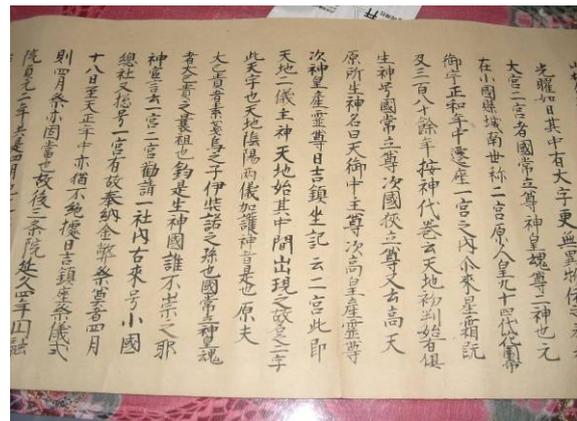
(突智冠神社の例・・・責任役員(3名)・総代(4名)で構成)

4. 成果や今後の課題

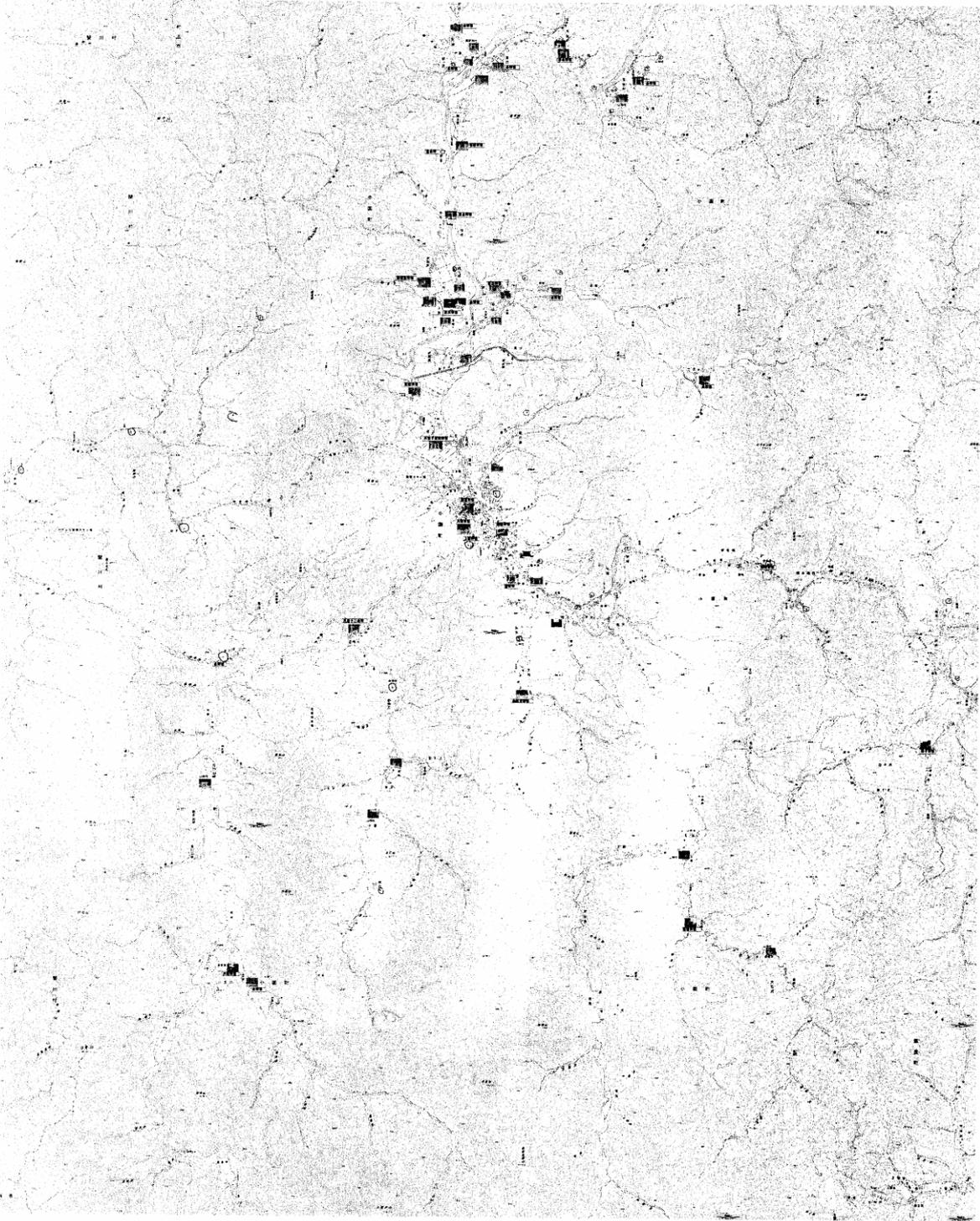
今回、小国町の歴史と文化の中でも神社について調べました。地域調査をしている中で、神社にも大小さまざまあり、また、地図には載っていない神社なども発見したりと、驚きもありました。小国町内には、今回調べただけでも69の神社がありましたが、地域もしくは個人で信仰されている法人化されていない神社もあるようで、東京23区とほぼ同じ面積の小国町には、まだまだわからない神社もあるように思います。

国土地理院の地図に載っていないところや、神社の特徴などをまとめ、デジタル化し神社マップも作りました。そのマップを見て、神社が立地している特徴として、集落の近くや川沿いに多くあることもわかりました。

歴史の深い神社もありましたが、不明な部分も多かったです。ただ、自然とともに生きてきた人間の生活にとって、神社は欠かせないものであり、村を形づくってきました。これからは、神社以外にも町の歴史的ないろいろなものについても調べていきたいと思います。



神社マップ（概要）



「豊かな自然と小国の人々」

班 員 鈴木まみ 高橋あかり 林智昭 樋口誠 舟山亜希

1. テーマ設定の理由

小国には豊かな自然があります。そして、そこに住むたくさんの人々がいます。私たちもその一人です。地域（町）と人それぞれに過去と現在そして未来があります。すべてのものに「歴史と未来」があります。そして、それらの地域（町）と人とは一体となりさらに自然に包まれて歩んでいるのです。それゆえに今の現実が「当たり前にある」ものとして、あまりにも無意識に生きていくだけで、今までの過去とこれからの未来に対し、なんら疑問をいだくことなく毎日を送っています。

そんな私たちですから、自分の住む「町の歴史」のことを何も知らないでいます。「豊かな自然」がどうなっているのか、「町の未来」はどうなるのか、などなどです。私たちの先祖は、そして親は小国の豊かな自然とどのようなかわりを持ちながら暮らしてきたか。そして未来に向けて今何をしなければならぬのか。何もわからないのが実情です。

豊かな自然に囲まれた小国の人々の暮らしの過去と現在に学びつつ、未来に向けて今できることはないのか、ということを考えていこうと、このテーマを考えました。

2. 調査の概要

- (1) 小国町の成り立ちを調べる。
- (2) 集落ごとに人口と世帯数の変化を調べる。
- (3) 地域づくり等のとりくみの事例を調べる。
- (4) 具体的なイベントなどのとりくみについて現地調査を行う。
- (5) 今後に向けての提言を考える。

3. 調査の結果

(1) 小国町の成り立ち

[明治22年の町村合併]

明治21年7月20日「小国小坂町村外」の組合村の会議で、小国郷をもって一村にしようとする意見書がまとめられました。そして、明治22年4月1日から施行された町村制は、近代的な地方制度としての新しい町村を成立させる大変革となったのです。「舟渡村他十九か村」は北小国村に、「市野々村他十三か村」は津川村に、「玉川村他十三か村」は南小国村に、「小国小坂町他二十八か村」は小国本村となって、小国四か村が誕生しました。その際、旧箱口村については、古くから白子沢村との関係も深く（白子神社の氏子である）、また時には、年貢

米を山崎のお蔵（叶水）に納入したことなどもあって、その所属が最後まで問題になったのですが、小国本村に編入されることになりました。

長い間、行政の末端単位として機能してきた、江戸時代以降の村々は、ここに完全に姿を消し、新しい村内の大字名として現在に引き継がれることになったのです。なお、小国本村は、昭和17年11月3日には、町制が施行され、小国町と改称されます。

[昭和の町村合併]

戦後昭和28年10月1日から施行された町村合併促進法は、31年9月末日に失効するまでの間に、全国一万の町村を、三千に再編成する大改革となりました。単なる行政上の“合併”から、戦後の地方自治の理念に支えられた新しい町村建設の段階に入ったと考えることができます。このことは、中央の一方的計画に基づいた合併からの脱皮がはかられてくることを意味しています。

このような新しい動きの中で、小国町は、県下に先駆けて、小国町、南小国村、北小国村の一町二村が合併することになります（昭和29年3月31日）。古くから一つの集団としてのまとまりを持っていたことを基盤にして、一体となって総合的な施策を考えていかなければ永久に救われないという共通認識が合併の大きな理由だったようです。米坂線の開通（昭和11年）や小国電興等の工場誘致の進展が大きな支えにもなっていたものと考えられます。昭和35年8月1日には、津川村を小国町に編入合併し、現在の小国町が成立しました。

こうして、単に面積が県内一の町になったばかりでなく、「歴史的にも、地域的にも、経済的にも、今後小国町の後進性を打破する基盤」（広報「おぐに78号」の町長式辞から）ができあがったのです。戦後の山形県の町村合併は、小国町にはじまり、小国町で終わったとよく言われています。

(2) 合併後の町を旧区割りの集落ごとに人口と世帯数の変化

	昭和60年		平成17年		減少数・率			
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口		世帯数	
旧小国町	8,501	2,443	7,116	2,443	1,385	16.3%	0	0%
旧南小国町	831	235	543	181	288	34.7%	54	23.0%
旧北小国町	1,513	347	1,197	320	316	20.9%	27	7.8%
旧津川村	1,251	312	886	333	365	29.2%	+21	—
合計	12,096	3,337	9,742	3,277	2,354	19.5%	60	1.8%

表は昭和60年～平成17年までの約20年間の人口と集落数の推移です。相当な数が減少し、集落によっては統合したところもあります。

(3) 小国町で地域づくり等のとりにくみ

各地域の方々は小国の歴史を継承するとともに、豊かな自然と共有しながら、地域活性化のためにさまざまな取り組みを行っています。

○地域づくりの事例

No.	名称	地域	主催団体	開催時期等
1	雪の学校	五味沢	雪の学校実行委員会	3月中旬
2	魚のつかみどり	五味沢	五味沢地区	8月上旬
3	朝日連峰山開き	五味沢	五味沢地区	6月上旬
4	熊まつり	小玉川	小玉川地区自然教育圏整備促進協議会	5月4日
5	ガムランワークショップ	小玉川	サザンクロス	年4～5回
6	小玉川イワナランド	小玉川	小玉川イワナランド	通年
7	萱野峠の復興	玉川	玉川地域振興協議会	不定期
8	古田歌舞伎	古田	古田歌舞伎保存会	10月下旬
9	舟渡の獅子踊り	舟渡	舟渡地区	9月中旬(隔年)
10	白子神社のお祭り	白子沢	白子沢地区	5月上旬・9月中旬
11	黒沢峠まつり	黒沢	黒沢峠敷石道保存会	10月28日
12	金目そばの館	金目	金目そばの館	4～12月
13	大宮ふるさと塾	大宮	大宮地区	不定期
14	山菜の学校		ここ掘れ和ん話ん探検隊	6～7月
15	白い森音楽祭		白い森音楽祭実行委員会	9月中旬
16	自家野菜直売所		母ちゃん市場	毎週月・金
17	共同作業所まんまる		共同作業所まんまる	通年
18	大相撲東関部屋合宿		実行委員会	8月中～下旬
19	雑穀の普及・活用		五穀の会	通年
20	安全・安心な農作物の研究		こだわり農業研究会	通年
21	ビオトープの整備・管理		森と水辺の会	通年
22	子育て支援		トライアングル	通年
23	農産物直売所「百笑市場」		おぐに地恵農環の会	毎週日曜日
24	花見	町中心部	おも白い森	4月下旬
25	みなみを元気にする会	南部地区		通年
26	東部地区振興協議会	東部地区		通年
27	北部地区振興協議会	北部地区		通年
28	水芭蕉の会	平林地区		通年
29	各地わらび園	各地域		5月下旬～7月上旬

(4) 具体的なイベントなどのとりくみについて現地調査

①黒沢峠敷石道保存会

米沢と越後（現在の新潟県）を結ぶ「越後街道」には13の峠があり、「十三峠」ともよばれている。「黒沢峠」は「越後街道」のほぼ中間に位置し、黒沢と叶水の集落を結んでいる約一里の峠道である。この「黒沢峠」は江戸時代から重要な交通路としてなくてはならない道でした。しかし、明治になって小国新道が開通しその後も国道113号線の開通に伴って、行き交う人もなく、さらに長年の風雨や落ち葉

などによって道の敷石は埋もれた状態になっていました。

こうした状況を憂いた地元の方々が、この貴重な遺産を

後世に残そうと地元黒沢部落で「黒沢峠敷石道保存会」

を発足し、そこに一般の方も参加して敷石道を復元しました。



②黒沢峠まつり

黒沢峠まつりは、「黒沢峠敷石道保存会」が毎年行っているもので、今年で22回目となります。遠く関東の方からも来る人もあり、毎年200名ほどで賑うイベントです。



4. 成果と今後の課題

今回改めて自分たちの住む小国町の現状をみてきました。現状は「集落の喪失の危機」という厳しい現実でした。その一方で、現在から未来へと繋げる活動に取り組んでいらっしゃる方の存在も知りました。しかし、皆さん「活動の継続性」への不安を訴えています。それらは町の課題であるとともに、実はこの町で暮らす私たちの問題でもあることに気づきました。私たちが豊かな自然とともに生きてくために、今後に生かせるようなアイデアを考えて積極的に関わっていくことが必要だと思いました。そこで2つのことを考えてみました。

アイデアその1：峠は13あるということなので、いくつかの峠の集落が協力して企画します。

1泊2日のツアーで全国募集です。

アイデアその2：いまは地元企画なので「自分たち以外はお客様」という考えですが、参加者も主催者として主体的に関わってもらいます。事前の落ち葉掃きや草刈などの保存活動そのものにも参加してもらいます。そのために団塊の世代をターゲットに参加を募り、会員制というのはどうでしょうか？

今回は時間の関係でアイデアのみとなってしまいましたが、引き続き検討していきたいと思えます。

参考資料：「古里の発見」 山形県立小国高等学校郷土史研究部編集 1985. 12発行

<http://www8.plala.or.jp/kurosawa-touge/newpage5.html>

「地域住民として救援者を知る」

班員 竹内祐人 小川達也 國分壮史

1. テーマ設定の理由

小国町に災害があった時に、それぞれの人がどのように動けばいいか、また、救援者（警察、消防署、役場、小国町立病院など）が災害前、災害時、災害後の復興時にはどのような役割を持っているのか、どのように連携しているのかを明確にすることが、自分たちの命を守るために重要だと思いテーマを設定した。

2. 調査の概要

聞き取り調査

- 8月6日 小国町役場町民課 梅川さん
- 8月6日 消防小国分署 鈴木さん
- 8月8日 小国警察署 土井さん
- 8月9日 小国町立病院 木村さん

3. 調査の結果

○救援者による救助 = 公助

公助とは、地方自治体を始め、警察、消防、国といった行政機関、ライフライン各社を始めとする公共企業などの機関の応急対策活動をいう。

(1) 災害に備えて行っていること

《消防署小国分署》

- ・ 出前防災教室の実施
- ・ 各防火対象物における避難訓練の実施
- ・ 自主防災組織

《小国町役場》

防災意識の向上…総合防災訓練、自主防災組織⇒地域の防災力を高める

《小国警察署》

- ・ 広報活動、県警のホームページを通して情報を伝える
- ・ 各家庭を回って注意を呼びかける
- ・ 基礎資料（関係機関との連絡網、避難場所、危険箇所など）の整理
- ・ 訓練
- ・ 機材・通信機の点検、整備

《小国町立病院》

- ・薬品などの備蓄(2日分程度)
- ・トリアージ(※)のための研修会(医師、看護師対象)

※トリアージについて

トリアージとは、**最小の資源で最大の救命を行う**ために、災害による多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、救命の順序を決める方法。語源はフランス語の「triage(選別)」からきている。

(2) 災害時

《消防》

直後・地震の場合震度4以上で全員待機

- 時間経過 ↓
- ・出動態勢を整える
 - ・情報の収集(警察、工事事務所等から)
 - ・負傷者の救助、搬送⇒道路が使えない場合はヘリコプターで空輸
ヘリポートはスポーツ公園野球場を使う
 - ・火災の消火

《役場》

直後・災害対策本部の設置(※)

- 時間経過 ↓
- ・災害情報、被害状況の把握
 - ・避難所の設置、避難に関する広報、避難の誘導
 - ・食料・水の確保、生活必需品の供給、仮設住宅の供給
 - ・ライフラインの応急対策
 - ・廃棄物、障害物の除去

※災害対策本部の設置基準

【地震の場合】

- 第1段階 震度3 (対策本部設置) : 町民課職員
- 第2段階 震度4 : 第1段階+地域整備課(道路・上下水道)、産業振興課(農林)
- 第3段階 震度5 : 第2段階+役場すべての課の課長、課長補佐
- 第4段階 震度6以上 : 全職員

【水害の場合】

- 第1段階(気象警報発令で対策本部設置) : 町民課職員
- 第2段階(警報発令後も断続的な雨) : 第1段階+地域整備課、産業振興課
- 第3段階(雨が降りづづく) : 第2段階+役場すべての課の課長、課長補佐
- 第4段階(河川の氾濫の危険性がある) : 全職員

《警察》

直後・被害の確認⇒駐在所(玉川・北部・叶水・沼沢)からの連絡

時間経過

- ・被害者の救出・救護
- ・避難の誘導
- ・警戒区域の設定 立ち入りの禁止・制限、退去
- ・交通規制⇒緊急通行車両(交通規制から除外される車)の事前届出制度
- ・防犯⇒他地区、他県の警察との応援で編成
- ・行方不明者の捜索、遺体の身元確認

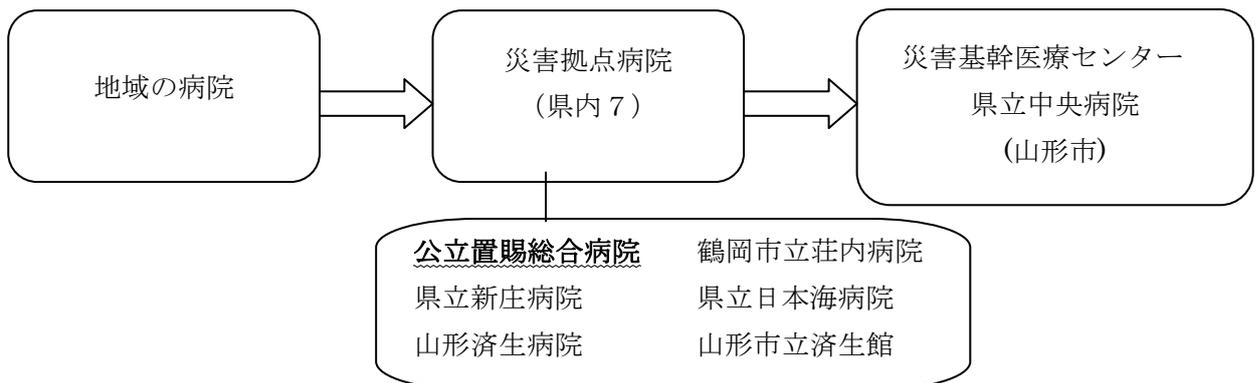
通常

《病院》

直後・応援体制(※)ができるまでの緊急医療が主な役割

- ・重症患者は他の病院に搬送(陸路…救急車 空路…ヘリコプター)
- ・開業医にも応援を要請し、町立病院に医療体制を集中させる。

※応援体制について



*災害拠点病院とは、災害時における初期救急医療体制の充実化を図るための医療機関であり、以下のような機能を持つ。

- ① 24時間いつでも災害に対する緊急対応ができ、被災地域内の傷病者の受け入れ・搬出が可能な体制を持つ。
- ② 実際に重症傷病者の受け入れ・搬送を、ヘリコプターなどを使用して行うことができる。
- ③ 消防機関(緊急消防援助隊)と連携した医療救護班の派遣体制がある。
- ④ ヘリコプターに同乗する医師を派遣することができることに加え、これらをサポートする十分な医療設備や医療体制、情報収集システム、ヘリポート、緊急車両、自己完結型で医療チームを派遣できる資器材を備えている。

(3) 復興時

《役場》

- ・ 公共施設（道路等）の復旧
- ・ 被災者の生活再建
- ・ 産業復興(会社・工場)の支援⇒多くの人の生活がかかっているところほど重点的

《消防・警察・病院》

通常の業務に戻る

4. 成果や今後の課題

今回普段は聞けないような話を聞くことができ、小国町がどのような防災への取り組みをしているのかがわかりました。けれども、まだ十分とはいえない点や問題点も残っているということなので、これからどのようにするのか関心を持ち続けて生きたいと思います。

災害はいつ発生するかわからないので、どの時期までどれくらいの備えをしていけばいいのかわからないところが共助の難しい点だということがわかりました。

I-6 避難場所や避難経路を確認してありますか？

→ はい…26% (6/23家庭中) いいえ…74% (17/23家庭中)

I-7 自分の住む地域における危険な箇所を把握していますか？

→ はい…17% (4/23家庭中) いいえ…83% (19/23家庭中)

I-8 NTT「災害用伝言ダイヤル171」を聞いたことがありますか？

→ 名前も使い方も知っている…17% (4/23家庭中)

名前知っているが使い方は知らない…57% (13/23家庭中)

知らない…26% (6/23家庭中)

I-9 携帯電話の災害伝言板を知っていますか？

→ 名前も使い方も知っている…13% (3/23家庭中)

名前は知っているが使い方は知らない…30% (7/23家庭中)

知らない…57% (13/23家庭中)

II. 災害時の避難について

II-1 家族構成について

家族の中に 幼児(5歳以下)がいる…0% 0/23家庭中

高齢者(65歳以上)がいる…65% 15/23家庭中

幼児と高齢者がいる…13% 3/23家庭中

幼児も高齢者もない(6歳以上~65歳未満)…22% 5/23家庭中

※1で幼児や高齢者がいると答えた方のみ(18家庭)

①幼児や高齢者の避難について誰が責任を持つか決めていますか？

→ はい…33% (6/18家庭中) いいえ…67% (12/18家庭中)

②家の中に小さいお子さんや高齢者だけになる時間帯がありますか？

→ はい…78% (14/18家庭中) いいえ…22% (4/18家庭中)

II-2 近所に小さいお子さんや高齢者だけになる時間帯がある家庭はありますか？

→ はい…70% (16/23家庭中) いいえ…17% (4/23家庭中)

知らない…13% (3/23家庭中)

※2で「はい」と答えた方のみ(16家庭)

そのような時間帯に災害が起きたときのことを話し合ったことがありますか？

→ はい…13% (2/16家庭中) いいえ…87% (14/16家庭中)

II-3 ペットは飼っていますか？

→ はい…39% (9/23家庭中) いいえ…61% (14/23家庭中)

※3で「はい」と答えた方のみ(9家庭)

①ペットの避難準備はしていますか？

→ はい…22% (2/9家庭中) いいえ…78% (7/9家庭中)

②どんなものを準備していますか？

→ ペットフード、トイレ、キャリーケース など

③もし、避難所生活することになった場合、ペットはどうしますか？

→ ・自分達と共に生活することを希望

・ペットより人間（子供第一）！！ など

（3）感想と考察

災害に対しての備えをしている家庭がもっとあると思っていたが、実際調査してみると少なかった。また、備えてあるものも十分とはいえなかった。

実際に「災害伝言板」を使ってみて、初めはどのように使ったらいいかわかりにくくて大変だった。ポスターなどから使い方を調べてやっと使う事ができた。使う事ができればとても便利なので、事前に使い方を知っておかないと「災害伝言板」の意味がないと思った。災害時は、冷静な判断が出来なくなっている事も考えられるので、事前に知識を備えておくことが必要だ。

4. 成果や今後の課題

今回のアンケート調査の結果をもとに、もし災害が起こったときに自分たちの命を守り、周りの人たちと協力して生き残るために必要な情報を載せた地図などをつくりたい。

地域文化学を通して自分たちが学んだ防災の知識を他の人たちに知らせることも大切だと思うので、その方法も考えて生きたい。